

平成25年度 新農薬実用化試験(効果試験)成績

試験実施機関:(社)福島県植物防疫協会

試験年度	項目	対象作物(品種)	試験薬剤(使用濃度)	対象病害虫名	発生状況	効果判定(薬害)	結果及び考察
25	病害防除	モモ	NNF-1120F (×2,000)	灰星病	少 (接種)	B (-)	NNF-1120フロアブル 2,000倍は、対照のダコレート水和剤 1,000バイト比較してほぼ同等の防除効果であった。無処理区と比較して高い防除効果が認められ、実用性はあると判断された。なお、新梢葉及び果実に対する薬害は認められなかった。
		モモ (まどか)	アミスター10F (×1,000)	炭疽病	甚 (接種)	B (-)	アミスター10フロアブル1,000倍は樹上調査において無散布区に比較し発病果率は低く防除効果が認められた。収穫時以降及び保存後調査においても無散布区に比べ発病果率は低く経過したが、最終散布日から収穫日まで多雨条件に経過し、試験薬剤区及び無散布区とも殺菌剤無散布で管理したことから、この間の試験区薬剤の効力低下を考慮すると、ほ場内の病原菌密度が高い中、収穫時までの果実への2次感染が助長され、試験区の果実発病も高まったものと考えられた。葉および果実に対する薬害は認められなかった。以上のことから実用性はあるものと判断された。
	虫害防除	リンゴ (ふじ)	トモノールS (×25)	ハダニ類 (リンゴハダニ)	中	B (-)	本剤25倍液の散布は、対照薬剤の機械油乳剤95 24倍液散布と較べるとやや劣ったが、一定の防除効果が認められ、実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。
		オウトウ (佐藤錦)	ベニカベジフルスプレー (原液)	カメムシ類 (チャバネアオカメムシ)	多 (放虫)	A (-)	本剤の原液散布は、対照薬剤のアルバリン顆粒水溶剤2,000倍液の散布よりも殺虫効果が劣るものの、吸汁阻害効果は同等に優れており、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。
		カキ (平核無)	アディオNF (×1,500)	カメムシ類 (チャバネアオカメムシ)	多 (放虫)	B (-)	本剤の1,500倍液の散布は、対照薬剤のアルバリン顆粒水溶剤2,000倍液の散布よりも残効性がやや劣るものの、殺虫効果及び吸汁阻害効果が認められ、実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。
		モモ (あかつき)	ハーベストオイル (×12.5)	倍量薬害	-	-	本剤12.5倍液の散布では、花(芽)および葉(芽)について薬害は認められなかった。また、発芽期や開花始期などの遅れも観察されなかった。
		アスパラガス (ハルキタル)	ALB-0663GR (5g/m ²)	ネギアザミウマ	中	B (-)	本剤の5g/m ² 処理は、無処理と比較して長期間にわたり防除効果が認められた。実用性はあると考えられた。薬害は認められなかった。
		キュウリ (パイロット)	ALE-1211 (50頭/m ²)	アザミウマ類 (ヒラズハナアザミウマ)	中 (放虫)	B	本剤の50頭/m ² 7日間隔2回処理は、無処理区と比較して防除効果が認められた。実用性はあると考えられた。
		コンニャク (みやままさり)	ダントツ粒剤 (3kg/10a 植付時 植溝処理)	アブラムシ類	少 (放虫)	B (-)	本剤の3kg/10a植付時植溝処理は、対照のアドマイヤー1粒剤培土時株元土壌混和と比較して効果は同等であった。無処理区と比較して高い忌避効果が認められ、実用性はあると考えられた。薬害は認められなかった。
		コンニャク (みやままさり)	ダントツ粒剤 (6kg/10a 植付時 植溝処理)	アブラムシ類	少 (放虫)	B (-)	本剤の3kg/10a植付時植溝処理は、対照のアドマイヤー1粒剤培土時株元土壌混和と比較して効果は同等であった。無処理区と比較して高い忌避効果が認められ、実用性はあると考えられた。薬害は認められなかった。